



# Crymix Project

価値の交換のためのコミュニケーションソリューション

ホワイトペーパーVer.1.2 (日本語)

2017年12月28日

クリミクス株式会社

## 目次

<b>1. Crymixプロジェクトについて</b>	<b>1</b>
<b>2.プロジェクト構成</b>	<b>3</b>
2.1 プラットフォーム	3
2.2 コアサービス	3
イ) コミュニケーションアプリケーション	4
ロ) CrymixWallet	4
ハ) 今後のコアサービスへの組み込み	5
2. 3 サードパーティサービス	5
2. 4 スケジュール	6
<b>3.暗号通貨CRX</b>	<b>7</b>
3.1 ポイントからトークン、暗号通貨へ	7
3.2 暗号通貨CRXの価値	7
3.3 暗号通貨CRXの仕様	8
イ) CRXポイントについて	8
ロ) CRXトークンについて	8
ハ) 暗号通貨CRXについて	8
ニ) 発行枚数	8
ホ) CRXの管理方法	8
<b>4. 技術開発. 産学連携</b>	<b>9</b>
4.1 次世代ブロックチェーンの研究開発	9
4.2 大学発ベンチャー企業	13
<b>5.CRXセール</b>	<b>15</b>
5.1 セール価格	15
5.2 セール方法	15
5.3 セール決済方法	15
5.4 セールスケジュール	15
5.5 予算配分	15
5.6 販売取次店	16
5.7 ライセンスと業界団体	16
<b>6.クリミクス株式会社</b>	<b>17</b>
6.1 メンバー	18

# 1. Crymixプロジェクトについて

我々のチームは2013年より仮想通貨関連ビジネスに携わり、次世代ブロックチェーン技術と仮想通貨の時代のビジネスモデルについて研究を続けてきた。その研究過程で我々のチームは、従来の仮想通貨関連ビジネスは、新しい仮想通貨の発行と、その流通にのみ焦点が当てられており、貨幣以外の「価値」について無頓着であることが気になっていた。貨幣価値を超えた「価値」が人間社会にはあるのではないかと、というのが我々の思いであった。

そこで、我々クリミクス株式会社はCrymixプロジェクトを通じて、様々な価値の交換とその本質的効果にブロックチェーン技術と次世代のビジネスプランを融合させ、新しい経済の形を創造する基盤を構築することを始めた。例えるなら、Ethereumのようなスマートコントラクトと、Rippleのようなストレスフリーな送金システムを実現する総合プラットフォームの開発を始めることとした。

我々の最初のミッションは、価値の移動にかかる障壁を極限まで減らすことにより、正しい場所に適切なタイミングで価値の移動を実現することであり、世界が様々な価値をリアルタイムに共有し繋がっているような社会の基盤を提供することである。

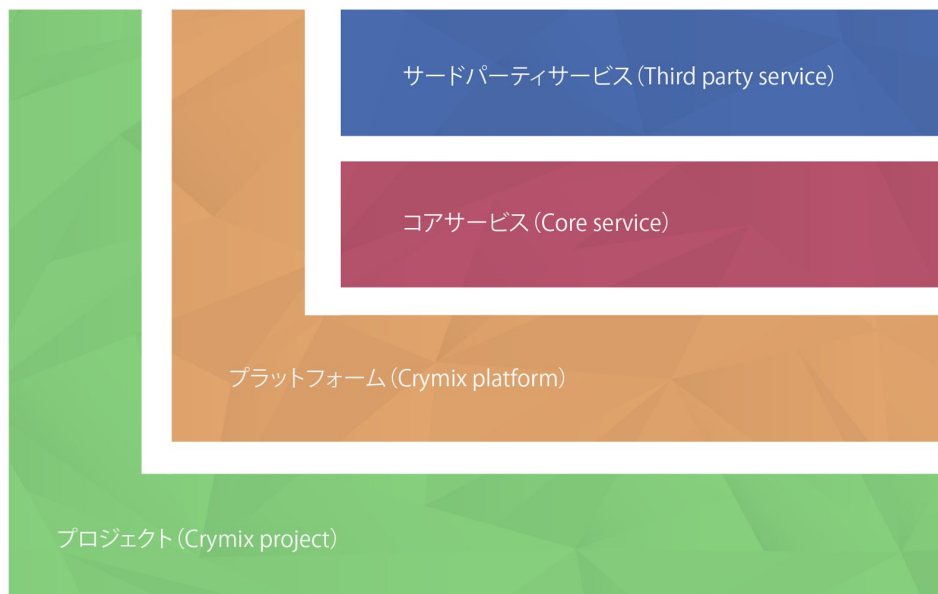
今後は、東京大学や東北大学などと産学一丸となり、より研究を加速させ、日本発の次世代ブロックチェーンとそれを用いるオリジナルプラットフォーム等の研究・開発及び、活用を行うものである。

また、我々はICO (Initial Coin Offering) の仕組みを活用し、将来的に本プロジェクトの中心となる暗号通貨CRXへの変換券とも言えるCRXポイントをCRXセールを通じて販売し、今後の研究開発費、及び組織運営費等の展開全般にかかる費用にあてる予定である。

## 2.プロジェクト構成

### 2.1 プラットフォーム

Crymixプロジェクト構築されるプラットフォームは、オリジナルブロックチェーンをベースとして開発されるものである。このプラットフォーム上に提供されるサービスは、クリミクス株式会社がサービスの標準機能として実装する「コアサービス」と、クリミクス株式会社以外の第三者がサービスを開発できる「サードパーティサービス」に分類される。これらのサービスは基本的に分散アプリケーションとして構築されるが、サービスの内容によっては中央集権型ストレージやシステム、外部ブロックチェーンを利用して構築される。



### 2.2 コアサービス

コアサービスは、クリミクス株式会社が直接プラットフォーム上に構築するアプリケーションによって提供されるサービスである。そのアプリケーションは、「LINE」、「WeChat」、「WhatsApp」のようなコミュニケーションアプリケーションであるが、コミュニケーション機能に加えて、法定通貨や暗号通貨の統合Wallet機能であるCrymixWalletを備えている。このコアサービスは、本プロジェクトの全ての関連サービスの中継として一意のユーザに対してPC、タブレット、スマートフォンなどマルチデバイスをサポートし機能する。

## イ) コミュニケーションアプリケーション

コミュニケーションアプリケーションは、音声通話やビデオ通話、ボイスメッセージや写真や動画などのファイル送受信、テキストチャット、グループ作成機能を行うことができる、シンプルなチャット風ユーザインターフェイスを提供する。

## ロ) CrymixWallet

CrymixWalletは法定通貨と暗号通貨をシームレスに管理でき、仮想通貨取引所の口座としての機能も有している。よってCrymixWalletは、送金に時間と場所の制約はなく、必要な時に適切な価値が交換可能なユニバーサル(万能)ウォレットである。

クリミクス株式会社は、日本国内の仮想通貨交換業の届出を提出し、仮想通貨取引所を運営する予定である。暗号通貨CRXはこの取引所に研究、開発を経て上場する予定である。取引所では暗号通貨CRX以外にBitcoin(BTC)、Ethereum(ETH)、Ripple(XRP)、BitcoinCash(BCC)、米ドルや日本円、ユーロなどの法定通貨の取り扱いを予定している。マーケットにおける資産価値、取引高、利便性、将来性を考慮して、NEM、DASH、Monero、Lisk、Ethereum Classic、Zcash、Augur、Factomなどのアルトコイン、イギリスポンドや中国元などの法定通貨の追加を随時検討する。

### 暗号通貨CRXとペッグ化

暗号通貨CRXはCrymixプラットフォームの全てのサービスで基準通貨として流通する。すなわち暗号通貨CRXは、通貨変換の際のペッグ通貨として、サービス利用時の決済通貨である。CrymixWallet内では法定通貨と仮想通貨がCRXでペッグされ、いかなる通貨や価値が円滑かつ効率的に変換される。

### 海外送金

かねてより法定通貨を用いる銀行を介した海外送金は、時間も費用もかさんでいた。現在では暗号通貨の発達により、時間と費用が掛からず海外間送金が可能となった。しかし、現状では最終的な法定通貨の入出金という段階で銀行を使う必要がある。我々クリミクス株式会社は、フィリピンに銀行を設立し、日本・フィリピン間での海外送金を始める予定である。日本・フィリピン間以外でも、組織間の国際事業決済や出稼ぎ労働者の本国への送金などの個人間取引における、国境を越えた海外送金にかかる負担と不便性の解消を図る。

## マイクロペイメント機能

暗号通貨をマイクロファンドなどの小額商品への投資や、小額配当の支払に利用することで、法定通貨での決済時に発生していた手数料を大幅にカットすることが可能である。例えばファンド会社は、小額配当を非常に短いサイクルで多数の投資家へ支払うことが可能となる。また、投資家は銀行営業時間を気にすることなく、任意のタイミングかつ少ない送金手数料で投資手続きを行うことができる。

暗号通貨はインターネット広告（web）広告の広告主（クライアント）、媒体主（メディア）、広告代理店（エージェント）間の決済など複数の主体が関わる決済に用いることができる。例えば、広告成果から実際の支払いに至るサイクルは月単位で掛かることも多く、報酬分配作業に時間と手間がかかっていた。我々のCrymixプラットフォームは広告報酬の支払いのような複数の主体が関わる決済をリアルタイムで行うことができる。

## ハ) 今後のコアサービスへの組み込み

Crymixプラットフォームを使ったユースケースは、下記の例のように様々な可能性が存在する。我々クリミクス株式会社は、ユーザの利便性の観点からだけでなく、様々なサービスをコアサービスとして提供していく予定である。

- ・従来の金融機関が扱わない資産の管理
- ・不動産賃貸契約
- ・未公開企業の株式取引
- ・著作権管理
- ・アンティークコレクションの所有権登記
- ・ブランド品、美術品の本物認証
- ・農業や製造業のトレーサビリティ
- ・医療情報の管理
- ・ビジネス契約書の管理
- ・不動産の登記
- ・戸籍や納税などの個人認証情報

## 2. 3 サードパーティサービス

Crymixプラットフォームでは、サードパーティ製のサービスを接続可能とするインターフェースのサポートを検討している。

Crymixプラットフォームでは、特定の取引や記録に特化し分散アプリケーションを構築できるのはもちろん、勘定系やストレージを、プライベートチェーンや中央集権的システムと連携したり、外部ブロックチェーンとの連携など高い汎用性が実現される。

## 2. 4 スケジュール

2017年	11月	クリミクス株式会社設立 第1期 CRXセール開始、仮想通貨交換業許認可届出
	12月	
2018年	1月	コンベンション開催
	2月	第2期 CRXセール開始
	3月	
	4月	仮想通貨交換業の届出完了
	5月	第3期 CRXセール開始
	6月	
	7月	CRXポイントをCRXトークンに移行
	8月	最終期 CRXセール開始
	9月	
	10月	フィリピン国内に銀行設立
	11月	Alpha版リリース、CRXトークンと暗号通貨CRXの交換開始 日本国内に(仮名)クリミクス取引所(仮想通貨交換業)を開業
12月		
2019年	1月	Beta版リリース、店頭窓口開設(東京、大阪、名古屋)
	2月	
	3月	サービスイン、クリミクス取引所へ暗号通貨CRXの上場

Crymixプロジェクトに関する情報は下記により配信することとする。

公式ウェブサイト	<a href="https://crymix.jp/">https://crymix.jp/</a>
最新ホワイトペーパー	公式webサイトからDownload
公式twitter	<a href="https://twitter.com/crymix_official">https://twitter.com/crymix_official</a>
公式Facebook Page	<a href="https://www.facebook.com/crymix.official/">https://www.facebook.com/crymix.official/</a>

## 3.暗号通貨CRX

### 3.1 ポイントからトークン、暗号通貨へ

Crymixプロジェクトのサービスイン前である第1ステップは、Webシステムで発行するCRXポイントを販売する。これはInitial Coin Offering (ICO) としての役割を担う。第2ステップは、Ethereumパブリックブロックチェーン上にERC20に準拠したCRXトークンにCRXポイントは変換移行される。第3ステップではオリジナルブロックチェーン上に暗号通貨CRXを発行し、CRXトークンと暗号通貨CRXを同枚数で変換し移行する。つまり、CRXポイントは仮想通貨交換業のライセンス取得後にCRXトークンとなり、それは最終的に暗号通貨CRXの引換券となる。



### 3.2 暗号通貨CRXの価値

暗号通貨CRXは、クリミクス株式会社が日本の仮想通貨交換業者として登録された後に、運営するクリミクス仮想通貨取引所に上場される。

仮想通貨市場では需要と供給により相場が作られ暗号通貨CRXの価値は決定される。一般的に暗号通貨の価値が上がる要因としては次の2つがある。流動性が向上することと、需要の増大である。例えば、暗号通貨CRXの長期保有者が増加すると、流通量が減少し供給不足となり、暗号通貨CRXの価値は上昇する。

また、海外送金や海外展開、エネルギー事業はじめプラグインとしてCrymixプラットフォーム上で構築するサービスも流動性を高め、需要が増大すれば価値を上げる一因となるだろう。クリミクス株式会社はマーケットメイクを行うことで暗号通貨CRXの価値の安定を図る所存である。



## 3.3 暗号通貨CRXの仕様

プロジェクトの初期段階で発行されるCRXポイントは、仮想通貨交換業のライセンス取得後にCRXトークンに移行し、その後暗号通貨CRXに同枚数で交換される。ここではこれらのCRXポイント、CRXトークン、暗号通貨CRX、を総称する場合、以降「CRX」呼ぶこととする。

### イ) CRXポイントについて

CRXポイントはWebシステム上で発行され、CRXトークンの引き換え券として機能する。CRXポイントはCRXトークンに同枚数として移行される。

### ロ) CRXトークンについて

CRXトークンは、Ethereumパブリックブロックチェーン上に、ERC20に準拠して既に開発済みである。前述のCRXポイントから仮想通貨交換業のライセンス取得を持って、同枚数にて発行され移行される。

### ハ) 暗号通貨CRXについて

暗号通貨CRXは、独自ブロックチェーンであるCrymixプラットフォーム上で発行され、Crymixプロジェクトのサービスインと共に流通が開始される。CRXトークンは暗号通貨CRXに同枚数として移行される。

## 二) 発行枚数

CRXポイントの総発行枚数は3億枚である。CRXセールではその3分の1の1億枚を販売する。CRXポイントとCRXトークン、暗号通貨CRXは同枚数での交換となる。

## ホ) CRXの管理方法

CRXポイント所有者は公式webサイト上の専用のウォレットで、所有数量を確認できる。暗号通貨CRXへの最終移行まで、ウォレット機能は下記のSTEPでバージョンアップする。

STEP 1 CRXポイントの購入、残高確認

STEP 2 CRXトークンの購入、残高確認、送受金

STEP 3 暗号通貨CRXの購入、残高確認、送受金、トレード、法定通貨入出金、海外送金

※STEP 2でトークン化、STEP3でオリジナル暗号通貨となる。

## 4. 技術開発・産学連携

### 4.1 次世代ブロックチェーンの研究開発

「交渉」は、人間の日常的な活動の中でも中心的なものであり、個々人の人間らしさ、つまり人間性が顕著に現れることの一つである。

クリミクス株式会社では、Crymixプロジェクト上で「交渉」を、ゲーム理論的表現を用いて実装するアルゴリズムを開発し、ブロックチェーンに組み込むことを試みている。詳細は出願準備中の特許明細書などに譲って、概略だけ説明する。

そもそも「交渉」とはどのようなものであろうか。複数の人間（以下、プレイヤーと呼ぶ）がそれぞれ独立の目標を持っているものとする。すると、プレイヤーが独自の目標を達成しようとするれば、各プレイヤーの目標の内容によっては、プレイヤーが置かれた状況次第で、目標が達成されるプレイヤーと目標が達成されないプレイヤーが現れる。このような場合にプレイヤー同士が協調するために、各プレイヤーは「交渉」を行う。交渉において、プレイヤー同士は、時には互いに譲り合い、時には一方が他方を説得し、ある合意案を形成する。合意案は、その交渉に関わるプレイヤー全員によって了承されなければならない。

この交渉をどのように定式化するかについては幾つもの可能性が存在するが、その中の一つのアイディアは、ゲーム理論的に効用を定義し、交渉の合意案はいわゆる効用最大化原理を満たすものとするアイディアである。n人ゲームは、ゲームのプレイヤー*i*、各プレイヤーの戦略 $g_i$ の集合、戦略の集合の直積上の実数値関数である効用関数 $f(g_i)$ の組として表現される。プレイヤーと、プレイヤーの戦略が決まった時の効用関数の値を効用と呼ぶ。各プレイヤーについて独立した複数の戦略だけを考えると、純粋戦略と呼ばれている。

各プレイヤーについて、交渉が成立した時に得られる効用  $s$  と、交渉しなかった時や交渉が不調に終わった時に得られると予想される効用  $f$  を定義する。交渉の合意（妥結点）は各プレイヤーについて、次の性質を満たすものである。

- 個別合理性：妥結点で各プレイヤーについて、 $s \geq f$
- 共同合理性（パレート最適性）：交渉は全プレイヤーの効用  $s$  が改善される限り継続され、妥結点を得られると、各プレイヤーの効用  $s$  を改善する妥結点は存在しない。

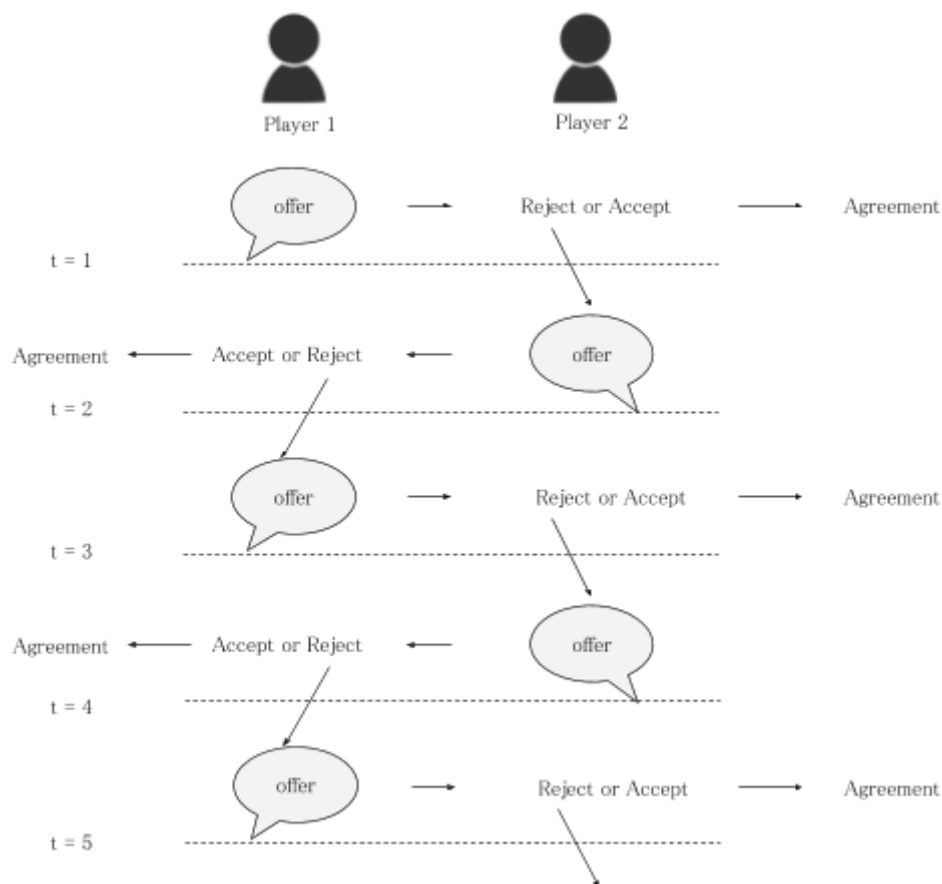
妥結点は複数ある場合もある。上の2つの性質を満たす妥結点の集合を交渉集合と呼ぶ。交渉問題が与えられたとき、最終的な一つの解を交渉解と呼ぶ。交渉解は交渉集合に含まれる。

交渉問題が与えられたとき、交渉解を得るまでにプレイヤーが従うルールを「交渉プロトコル」と呼ぶ。交渉プロトコルは、次のような性質を満たすものが望ましいと言われている。

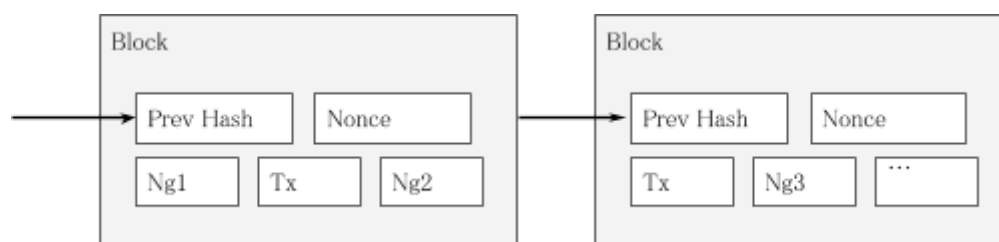
- 有用性：交渉の結果として得られたものは有用でなくてはならない
- 安定性：どのプレイヤーも合意した内容から他の戦略に変更する動機をもたない
- 単純性：交渉に必要な通信コストが低く、計算の煩雑さも低い
- 分散性：交渉がボトルネックとならないために、交渉に参加するプレイヤーの他に、意思決定のために中心的存在となるプレイヤーを必要としない
- 対称性：交渉において、交渉に参加するプレイヤーは平等である

「有用性」と「安定性」は、個別合理性と共同合理性（パレート最適性）のことであり、「分散性」と「対称性」はブロックチェーンの概念に基本的に内包されているものである。このように、ゲーム理論的な表現とブロックチェーンは相性が良い。

たとえば、第1の時刻 $t=1$ にプレイヤー1がパレート最適性を満たす妥結点の一つをプレイヤー2にオファーする。プレイヤー2がそのオファーを了承すれば、合意したとみなされ交渉は終了する。そうでなければ、今度はプレイヤー2がオファーする。これを両者が合意するまで続けるが、ここで例えば、各プレイヤー $i$ には、オファーのたびに自分に付与されている効用が所定の割合だけ割り引かれる、というルールがあっても良い。このような状況で、交渉ゲームに唯一の均衡点が存在することが知られている。このような交渉を、交互提案ゲームと呼ぶ。



下は上の「交渉」を考慮した時の、ブロックチェーンの概念図である。サトシ・ナカモトの論文、「Bitcoin: A Peer-to-Peer Electronic Cash System」の中の図との差異は「Ng」で表される交渉に関わるレスポンスが含まれていることである。各ブロックは「前のブロックのハッシュ (Prev Hash)」、「ナンス (Nonce)」、「取引 (Tx)」、「交渉 (Ng)」を含んでいる。このブロックを時系列的につなげたものがブロックチェーンであり、取引の記録がすべて含まれている。ここで「取引 (Tx)」と呼んでいるのは、ビットコインを使う「権利」をある人から別の人に移転する手続きである。「ナンス (Nonce)」は、プルーフ・オブ・ワークスで使用される。ブロックは、条件が付与されたブロックのハッシュ値を与えるナンスを見つけたユーザが、ブロックをネットワークにブロードキャストしブロック内の取引は公開される。



「Ng1」、「Ng2」と「Ng3」は交互提案ゲームでの「提案」に相当する。

我々の「交渉」の仕組みは、たとえば、動産取引や不動産取引でも利用可能である。従来は、これらの取引のときには複数鍵取引（multisig transaction）であるエスクローの仕組みを用いることが多かったのではないか。エスクローの場合は、プレイヤーの他に取引を仲介する第三者が存在する。我々クリミックス株式会社が提供するシステムでは、

- 「交渉」は衆目の下に行われ、権威を持つ第三者の必要がない

という特徴を持つ。このような「交渉」では、不正な交渉に対して、第三者が意義を挟むことも容易である。

我々クリミックス株式会社は、ゲーム理論的交渉の利点は次のような点にあると考えている。それはナッシュ交渉解に関わる。

戦略 $g_i$ の組だけを考えることを「純粋戦略」、各戦略について割合まで考えることを「混合戦略」という。 $p$ を0から1までの数、戦略をとって $g_1, g_2$ があるとき、たとえば、 $p g_1 + (1-p) g_2$ のようなことを考えるのが混合戦略である。

ナッシュ均衡解は、各プレイヤーが情報交換も協力もしないという非協力ゲームの解である。ここではプレイヤー間の「交渉」はない。端的に言えば、フォン・ノイマンの2人プレイヤーでのゼロサムゲームにおける「ミニマックス定理」を、 $n$ 人非協力ゲームにまで拡張して得られる均衡点のことである。ここにおいて導かれた「ナッシュ均衡」とは、他のプレイヤーが同一の戦略をとり続ける限り、あるプレイヤーが自らの戦略を変えたとしても、自身の利得を増やすことができないということを意味する。この均衡点の存在を、有限個の戦略がある純粋戦略  $n$  人非協力ゲームに対して証明したのがジョン・ナッシュである。このナッシュ均衡解は、交渉がない場合の解であり、動物生態学の世界で使われている。「交渉」という行為が人間的であることの証左であるかも知れない。

さらに、このナッシュ均衡解を「交渉」がある場合に拡張したのがナッシュ交渉解である。ナッシュ交渉解は、各プレイヤーの基準点からの効用の増分の積を最大にする点を妥結点とするものである。

クリミックス株式会社が「交渉」に注目するのは、交渉問題の状況に対して設定される要求ゲームについてジョン・ナッシュが顕著な結果を残しているからである。

要求ゲームでは、各プレイヤーはそれぞれ混合戦略を選択する。プレイヤーが2人なら、2人の要求が両立不可能である場合に、使用を強制される戦略をプレイヤーの「威嚇」とする。プレイヤーたちは互いに自分の威嚇を知らせあう。ここでは各プレイヤーが独立に行動するという仮定がおかれている。プレイヤーは相手からの威嚇に対して、協力するかしないかを選択する。各

プレイヤーは、自分に利得がもたらさないかぎり相手に協力しない。この利得の実現可能集合を考え、実現可能集合に関する要求ゲームの特性関数を導入して、各人の利得と戦略の組を関係づける。次いで、この特性関数を解析的手法で平滑化することで、要求ゲームの近似である「平滑化された要求ゲーム」を考える。この「平滑化された要求ゲーム」の唯一の「ナッシュ均衡解」の存在をジョン・ナッシュは証明している。そして、この「平滑化された要求ゲーム」が元の要求ゲームに近づくと、その均衡解はナッシュ交渉解に近づいて行く。このように、ナッシュ均衡解とナッシュ交渉解は、交渉問題における要求ゲームに対して「平滑化された要求ゲーム」を考えると、関連が付くのである。

非協力ゲームとは、各プレイヤーが互いに協力することなしに、自由競争をするようなゲームである。一方、協力ゲームでは、ジョン・ナッシュも指摘しているように、「高度に合理的」で人間離れしたプレイヤーが仮定されている。つまり、非協力ゲームでは資本主義の市場原理主義のような状況であり、協力ゲームではハイエクが嫌いだっただ計画経済的社会主義のような状況である。この両者は、協力と競争を「なめらかに」することによって結びつくというのがジョン・ナッシュの発見である。

このように、ゲーム理論的な「交渉」は、資本主義の市場原理主義とも計画経済的社會主義とも異なる「ルール」を生成する可能性がある。しかも、それが計算機上で、実際のアルゴリズムとして実現可能であるのである。これが、我々クリミクス株式会社が「交渉」を重要視する理由の一つである。

クリミクス株式会社は、東京大学との共同研究により、上記システムの研究、開発を進める予定である。

## 4.2 大学発ベンチャー企業

クリミクス株式会社は、東北大学の研究成果と当社が持つ技術の融合について共同研究を行う。この共同研究の成果について、我々のCrymixプラットフォームを利用した、応用プロダクトをサービス化し、運営、販売していく予定である。これはコアサービスではなく、サードパーティサービスとしてCrymixプラットフォームを利用して構築する。

## 5.CRXセール

### 5.1 セール価格

CRXセールの価格について、第1期CRXセールは1CRXポイントを100円とする。今後の販売価格は、セール期間ごとにその時の需要を鑑み適時価格を決定する。また、一度に1万CRXポイント以上の購入するような大量購入の場合は、クリミクス株式会社が規定するプレミアムを付与することがある。

### 5.2 セール方法

公式ホームページまたは認定販売取次店経由で販売する。

※認定販売取次店リストは後述の「5.6 認定販売取次店」または、最新の情報は公式ホームページに記載している。

### 5.3 セール決済方法

公式ホームページ上でウォレット登録、購入手順を行い、指示にしたがい購入が可能です。銀行振込、Bitcoin(BTC)、Ethereum(ETH)で決済可能です。

※現金決済は一定量のご購入のみ検討いたします。ご希望の場合はお問い合わせください。

### 5.4 セールスケジュール

セール名	セール期間	販売価格
第1期	2017年11月20日～2018年1月31日	100円 / CRX
第2期	2018年2月1日～4月30日（予定）	150円 / CRX（予定）
第3期	2018年5月1日～7月31日（予定）	200円 / CRX（予定）
最終期	2018年8月1日～9月30日（予定）	250円 / CRX（予定）

## 5.5 予算配分

CRXセールによって得られた資金の用途は以下の通りとする。

- ・プラットフォーム、サービスの開発費
- ・ブロックチェーン研究開発費
- ・マーケットメイク、サービス安定化のための基金
- ・産学共同研究、大学発ベンチャー事業に対する予算
- ・コンベンション開催費
- ・事務局、研究所の維持運営費
- ・プロモーション、マーケティング費
- ・多言語カスタマーサポート体制の構築と運営費
- ・メンバー、スタッフの報酬

## 5.6 販売取次店

CRXポイントの販売取次代理店は、クリミクス株式会社から許可を得た法人が販売取次が可能である。

## 5.7 ライセンスと業界団体

クリミクス株式会社は日本国内に登録する法人のため、金融庁財務局への仮想通貨交換業登録の届出を進めており、同時に仮想通貨事業者の関連団体への参加も進めていく。



## 6.クリミクス株式会社

社名	クリミクス株式会社
英語名	Crymix Corporation Limited
設立	平成29年11月1日
住所	105-0003 東京都港区西新橋2-11-9駒見ビル3F
代表電話番号	03-5521-1011
代表FAX番号	03-5521-1012
代表メールアドレス	info@crymix.jp
資本金	10,000,000円
決算期	11月
代表取締役	筒井 潔
取締役	飯坂 彰啓
顧問相談役	小島 弘
顧問相談役	篠原 浩一郎
主な事業内容	仮想通貨交換業(申請準備中)、ブロックチェーン関連技術研究開発
産学連携・共同研究	国立大学法人 東京大学 国立大学法人 東北大学

## 6.1 メンバー

### 代表取締役

筒井 潔

慶應義塾大学工学部電気工学科博士課程修了。外資系テスターメーカー、ベンチャー企業を経て、経営コンサル業界と知財業界に入る。また、財団法人電子文化研究所技術顧問、財団法人電子情報教育振興協会評議員など、公益団体の運営のみならず、一般社団法人等の立ち上げに携わる。日本物理学会、ビジネスモデル学会や、物理学系の国際会議での発表歴あり。大学の研究成果の事業化のアドバイザーとしてリサーチアドミニストレータの職も経験。共訳書にA.Isihara「電子液体：強相関電子系の物理とその応用」（シュプリンガー東京）、共著に「消滅してたまるか：品格ある革新的持続へ」（文藝春秋）がある。2017年11月より現職。

### 取締役

飯坂 彰啓

京都大学工学部数理工学科卒。三菱銀行、ソロモンブラザーズアジア証券会社、KPMGファイナンシャルサービスコンサルティング、リーマンブラザーズ証券会社、ベアースターンズジャパン証券会社等で、外国為替ディーリング業務、投資戦略、デリバティブ評価モデル、リスク管理モデル、デリバティブ金融商品の研究、開発、運用、マーケティング等の業務に従事。その後、デリバティブ金融商品評価を行うデリバティブリサーチ株式会社を設立し共同代表に就任。2017年11月より現職。

## **重要なお知らせ**

CRXポイントはいかなる管轄の安全性をも構成するものではありません。このホワイトペーパーはいかなる目論見書や提案書を構成するものではなく、またいかなる安全性を保証したり安全な投資の勧誘をするものでもありません。

このホワイトペーパーはどのCRXポイントの発行者、配布者（以下、「発行者」）も売却や購入の提案をするものではなく、いかなるプレゼンテーションも投資家との関係性や意思決定を促すものではありません。

本ホワイトペーパーは、CRXポイントの売買に関して法的な契約や拘束をするものではなく、このホワイトペーパーに基づいた暗号通貨の決済を含む一切の決済は存在しません。

発行者と購入者との間のいかなる合意や売買の関係は、別個の書式（以下「契約書」と呼ぶ）によって合意がなされるものとします。契約書とホワイトペーパーの間に差違が生じた場合は、契約書が優先されるものとします。

このホワイトペーパーにて提示された情報は、政府の権威などによって調査、承認されているものではありません。いかなる管轄の法や規制上の要求、ルールによって執行されるものではありません。このホワイトペーパーの公開と発行、配布は法や規制上の要求、ルールによって承認されたことを意味しません。

クリミクス株式会社および関連企業のビジネスや業務内容、CRXにはリスクと不確実性があります。

## **免責事項**

最大限法や規制、ルールの適用範囲を広げるため、クリミクス株式会社や発行者はいかなる間接、特別、不慮、偶発またはその他のいかなる損失、不正に契約やその他（報酬の損失に限らず、収入や利益、利用やデータの紛失など）、このホワイトペーパーに起因したものに対して、一切責任を負いません。